

2026年産米の収穫予測(7月31日現在)

【水稻作柄】◆全国作況101の「平年並み」

米穀データバンクは、各都道府県別の7月末までの気象データを、作況推計プログラムに投入して作況および収穫量を予想した(8月1日以降、収穫期まで天候が平年並みに推移した場合の予測値。天候の経過によって上振れ・下振れの余地があり、確定的なものではない)。

令和8年産(2026年産)の水稻作柄は、全国作況101の「平年並み」が予想される(作況指数の基準は米穀データバンク試算の「8年産水稻10a当たり平均収量」)。都道府県別では、106の「良」が1道、102~105の「やや良」が18府県、99~101の「平年並み」が24都府県、95~98の「やや不良」が4県で、「不良」はなかった。

田植え以降、高温で経過しており、おおむね天候に恵まれて推移しているが、東北や北陸を中心に梅雨明けが遅れたことが気になるところ。今後は高温障害、病害虫の被害、台風の動向等が収量や品質に与える影響に留意する必要がある。なお、品質低下等を要因とした精米歩留まりの減少については、当予測に反映できないことをご理解頂きたい。

【作付面積】◆水稻推計136万6千ha(主食用米等)

主食用米等の水稻作付面積については、農水省公表の「水田における作付意向(8年6月末時点)」を使用。主食用米の作付面積は前年比1千ha減の136万6千haとなっており、前年産と同水準。また、8年産でも8月20日まで、営農計画書等の変更が可能のため、変動の可能性もある。なお、備蓄米のほか、加工用米、新規需要米など非主食用の戦略作物は収穫予想から除外しているほか、自然かい廃等があることから変動の余地がある。

【水稻収穫量】◆主食用米等744万2千トン

作付面積と作況予測に基づく、7月31日現在における8年産水稻主食用米等の収穫予測は、全国平均で10a当たり収量545kg、収穫量約744万2千トン、前年産実績比約2万6千トン減と見通した(いずれも1.7mmふるい目幅ベース)。また、参考として農家ふるい目幅ベースの収穫量も合わせて予想を行ったところ、全国計では713万5千トンという結果になった。

